

令和3年度 日田もりビジョン推進検討委員会 議事録

日 時 令和3年9月17日(金)10時半～12時
場 所 日田市役所 7階 中会議室

次 第

- 1、開会
- 2、委員紹介（変更のあった方のみ）
- 3、委員長あいさつ
- 4、議題
 - (1) 日田もりビジョンの取組状況について
- 5、意見交換
 - ・テーマ 人材育成・担い手確保について
- 6、その他

【質疑・応答】

(委員長)

この委員会は、川上から川下までの、最前線で検討する委員会である。なお、譲与税活用の要望があれば、来週の委員会に要望として伝えるようにする。

(委員)

P6の木づかい促進事業は木協で助成手続きを受け付けている。毎年好評で、今年度は8月に予算消化したが、最近、助成の問合せがある。できればもう少しお願いしたいところである。そのほかに、P13の新規就業者の中身は、山に入る人か、製材業がわかるか？

(事務局)

木づかい促進事業は、昨年コロナの影響もあり、助成額15万円を20万円に上げた。リフォームだけでも280棟位対応している。今年もリフォームの需要が多い。現在で130件を超える件数で、新築も60件近くの要望がある。例年でしたら、12月過ぎに予算消化するが、8月で終了した。予算的にしても、手厚くしたいし、また、多くの方に利用していただきたいが、市の単費で対応している。国などの経済対策を待ちたいと考えている。

また、消費税の値上げなど、いろんな問題があり全国的には新築が減少しているが、日田市においては異例なほど新築が活発に動いている。また、リフォームもここ1・2年非常に多く利用され、地域材が利用されている。そこに対応できる財源がないというのが現状である。

林業の新規就業者数に関しては、川上の林業従事者として統計データを出しているのですが、製材関係等は含まれていない。この指標は、令和元年度改訂のビジョンを作成するに当たって選

定したもので、ビジョン(冊子)P73 に取組状況と今後に向けた要素をピックアップしたものと
して記載している。

(委員長)

私も、木づかい促進事業については、一般のユーザーにも拡充してもらいたい。

(委員)

全体を通して「林業の町・日田」で作るもりビジョンとして、林業をどうするかというつくり
になっているが、林業という業界から見た森と、市民から見る森は大きく違うのではないか。
特にここ何年、災害が非常に大きく、その原因は人工林にもある。本来残さなければいけない
広葉樹を全部伐採している。「広葉樹をどうするのか」という計画がいるのではないか。

例えば、九州大学の名誉教授と萩尾の市有林と大山町の松原ダムに2か所に、実生の広葉樹
を育てているが、広葉樹を育てていく、広葉樹の山を作ることをどこかで考えていかなければ
ならない。広葉樹にすべき森の、尾根筋、急峻な場所、沢筋、川筋は実生苗の広葉樹を育てて
広葉樹で災害を防ぐ。また、小野地区の災害前に話をしたが、昔、山の斜面に土を持って上がり、
木を植栽しスギを植えている。元々ないところに土を持っていっているので壊れるぞと言
ったら翌年壊れた。日田市は、筑後川流域で82%人工林率を誇っている。全国は45%。うま
く配置して、筑後川上流の山の作り方をどうしたらよいか、将来的に向けた山づくり森づくり
を考えてほしい。

2つの学校の子供たちに毎年森を見せているが、なぜ森づくりが必要なのか、森を教えてあ
げる必要がある。コロナで活動は中止しているが、市民に響く、スギだけではない森づくり
の道筋を作るもりビジョンであってほしいと考える。

(事務局)

ビジョン(冊子)P39の生産林・環境林のイメージの中で、環境林のところには広葉樹の森づ
くりと考え、どこでもスギの木を植えるのではなくて、市有林モデル事業では広葉樹も植栽し
てきている。苗木が高い等もあり、すぐに解決はできないが、生産林・環境林の目的に応じた
森づくりを進めていく。

(委員長)

ご意見は、森林生態、森林エコロジーの分野であり、息の長い事業なので、そういうところ
も踏まえて対応していきたい。森林の生態を守ることと、林業木材産業は相反するところもあ
る。将来的なものが危惧されるところでもある。

5、意見交換

・テーマ 人材育成・担い手確保について

(委員)

市民の森林・木材産業への関心について、林業は日田市の基幹産業である。地域の人たちに

も身近に感じてもらいたい。そのためにはまず、知ってもらいたい、見てもらいたいと思っている。幼少期から森や木に親しむ場所づくりと書いているように産業に触れる機会をもっと増やしてもらいたい。市の取組も記載されているように、日田林工 林業科の生徒も実際の林業の現場や製材所等の視察を実施している。日田市内の小中学校の生徒にも、みんなに興味を持ってもらえるようにしてもらいたい。毎年は難しいだろうから、3年に1回くらいの割合で、林業の現場や製材所や木材加工施設を見学して、環境学習を含めてしていただけたらと思う。各地域には林業事業体、事業所に協力をいただき実施できたらと思う。

(委員)

日田家具の現状は、日田市の場合、学習机は、10数年前に導入し、現在老朽化している。新しい学習机は、天板を取り外しができるようにし、1年生に自分の天板をもらい、学年が上がるごとに6年生まで持ち上がるようにする。そして、卒業の時に6年間使った自分の天板を記念にもらおうという仕組みを作ろうと考えている。天板が外せるので、メンテナンスも簡単である。現在、小野小学校にサンプルを入れており、ブラッシュアップをして来年度以降に導入していきたい。地域の活性化では、日田はソファー、足もの家具の産地であるが、まだブランドイメージが弱く、青柳、朝日木工があり、日田で家具を作っていることは認識しているが、実際家具工場に行ってみ学する機会がなく、家具の業界と一般消費者の出会いがないので、工場を見てもらう。日田は家具の街であることもPRしていきたい。

大分芸術短期大と日田家具の若手がコラボして、スギを使った新しい視点での家具のデザイン開発を始めた。日田が魅力あるモノづくりの街であることを知ってもらい、UターンIターンも含め、若い人に集まってもらえるように、業界を挙げて取り上げていきたい。地元高校生などインターンシップを行い、今年度は林工の生徒の女子2名が就職し、芸術短期大学の学生の1人が日田の家具職人になりたいと言ってくれた。

(委員長)

家具学童机から始まり、デザイン等の木の魅力を知ってもらいや後継者のこと、子供たちに地域の産業を啓蒙していきたいなど、各委員からの発言でした。

(委員)

日田家具工業会さんは観光の時に関わっていたので存じ上げている。SDGsやカーボンニュートラルなど木材に関する産業は注目されている。旅行会社に営業に行った際には、日田の取組は進んでおり、修学旅行として受入れが可能であれば行きたいと話を沢山いただいた。特に、家具工業会の若い方が中心に、今まで見せていなかった工場を見学できるように開放してくれている。こういう取組がもっと進むと、市民にも開放して工場の参観日みたいな取組もしてくれているので、市外に売っていくことができるようになるのではないかと思い、市の色々な部署を含めたところで取り組んでいきたいと考えている。

(委員)

住宅の新築が昨年から多くなっている。今建てる年代としては、30代前半が多く、子供は

小学校低学年が多い。木づかい促進事業をほとんどの住宅で活用している。その時がきっかけで、家が木材できていることに気付くことが多い。せっかくその時に、親子・家族で参加できる、先程の工場見学があればピンポイントに印象深く、PRできて面白いのではないかな。

(事務局)

ビジョンの進捗管理は、本委員会のほかに、市役所庁内の関係 12 課に教育委員会も入って協議をしている。その中でも小さい頃から学校の教育の中でも木育の話ができないかなど話を進めている。学校の授業数が少ない中で、公民館の生涯学習や、学校指導要領の中での対応など、林業の町日田として、お互い協議を進めている。今後も公民館や家具工業会等と連携し、産業観光としての「ひたらずむ」の中でも連携して関係課や事業所に繋げていきたい。

(事務局)

木育というのは、小さい頃の 2～3 歳に対してはできないと考え、父母に対して木育を説明することで、子供に対する環境を整えてもらう。その中で、新生児の保護者に対して森林の木箱を配布している。小さい頃は、定期検診などの資料入れやおもちゃ箱に活用したり、子供と一緒にこの木箱と一緒に成長してもらい、木のイメージを育んでもらいたい。

(委員長)

日田市の博物館でも良い展示があるが、あくまで大人向けでありあまり知られていない。子供と一緒にできるものにするとう違和感を感じている。林業の魅力を伝えるため、子供が大好きな YouTube の活用について、良い意味でも悪い意味でも、SNS や YouTube を活用するとよい。

(委員)

人材育成の点で、担い手不足が話に上がる。木を伐って出す素材生産者は、行政の力もあり増えているが、植付け等を行う造林者が思うように増えないと、各市場から話が出ている。1 つは高齢化や、新規卒業者がそのまま造林の業種に入れるほどの稼ぎができるのか。現状として、業として成り立っている部分と成り立っていない部分に目を向けて、考えていかざるを得ない。そうしないと、今後、日田林業界に基がなくなるのではないかと心配である。「伐ったら植える」を念頭にしていかにといけない。

(委員)

農業の新規就労者の方は、手当が出ているのか。

(委員)

農業の新規就業者への支援策として、国から年間 150 万円などがある。また、県と市から 100 万円の年間収入が確保できる制度がある。親元からの制度も市の方で設けている。

(事務局)

林業アカデミーを受講するに当たり、給付金が年間 130 万円程度、国から出ている。これに

加え、日田市では譲与税を活用し、交通費補助を行っている。

(委員)

造林作業班確保に対する取組では、今年の3月から雇用改善検討会を設置し、森林組合や民間事業体、日田林工の先生方などにメンバーとして入っていただき、造林作業者の確保等について議論している。県下の他の地域の状況を調べたところ、県南で造林作業者の確保ができており、年間約300haの地拵え、再造林、鹿ネット設置、5年間の下刈り等を実施している事例がある。造林作業者を確保できている要因としては、まず、主伐するときに、伐採作業班が林内の片付けを行い造林作業班の負担を減らしていること。また、年間の仕事量を確保し、造林作業班が1年間安心して働ける体制を作っていることである。このような体制を作っていることで、若い造林作業者が安心して就労できている。日田でもできないか検討していきたいと考えている。

そのほか、雇用改善検討会では、日田林工の卒業生が、新卒で安心して林業事業体に就職できるように、安全安心な職場であることや給与面などについても、関係者と議論を進めている。

(委員長)

各業界の人材確保についてはどうか。

(委員)

家具づくりの仕事がどのようなものか皆さん知らないので、家具づくりのメーカーに入り本当に大丈夫なのかと思われている。新卒の高校生は入ってこない。若手が入ってこないのは、深刻である。家具の職人になりたいと京都の女性が訪ねてきたこともあり、目的意識を持った子は来ることがあるが、新卒の子はなかなかこない。

(委員)

今、私が在籍する建築士会も20代は数人で、全体で80人ぐらいいるが、20～30代は10人くらい。ほとんどは60代である。かなり前から、若い人が入らないと話していた。また、大工は30代も1人親方はいるが、設計業務の建築士の方は高齢化が進んでいる。

(委員長)

今頃は、銀行等に入りたがらない傾向があると聞く。流行り廃りがあり、時代の波があるが、今は工業系に人気があると感じる。

(委員)

森林組合は、事務を希望する職員は少なく、現場で働きたいと希望する職員はいる。

(委員)

製材業は、いつも求人を出しているが、ある程度の応募は来ており、昔よりは若返っている。それなりに若手がいる。経営者が引退しても、世代交代はしている状況である。

(委員長)

森林組合は、伐採班が確保できない。造林班も少ない。せつかく材価が上がったのに慢性的に作業班がない。市外から日田に入ってくる林業者もいる。

(委員)

弊社としては、山間部ということもあり、日田管内で人材確保が困難なので、近県等の福岡、熊本、大分市内に求人を出したら、人材確保できるようになった。しかし、数年たって技術を取得した時に、他の事業体に転職してしまうことがある。地元で定着がなかなか難しい。いつも人を育成しているような感じになっている。

(委員)

年間の延べ林業作業日数データがあり、日田市が2015年には約10年で50%減少となっていて、宮崎市周辺は約4倍に増えている。中国木材の影響等があるかと考えられるが、作業日数が減ってきている。なぜ、日田市が減少をしてきているのかなど、調査研究している。

(委員)

宮崎県内では素材生産量が増えているので、宮崎市周辺の林業作業日数は増加しているのではないかと。規模拡大している製材工場は増えていることや、中国木材(株)日向工場の稼働など需要の増加も影響していると考えられる。

(委員長)

大規模工場が多いので人が集まる。日田は老舗の林業地でパイが決まっている。限度があると思われる。

6、その他

(委員)

日田林工高校(林業科)の求人状況や就職状況等説明(省略)

7、閉会

令和3年度日田もりビジョン推進検討委員会 委員名簿

任期：R2.8.3～R4.3.31

No	所 属	役 職	氏 名	備 考
1	大分県林業経営者協会	顧 問	長 哲也	委員長
2	日田市森林組合	管理指導課長	柿本 明宏	
3	日田木材協同組合	総務課長	井上 勝喜	
4	日田地区原木市場協同組合	業務委員長	黒木 利典	
5	大分県森林インストラクター会	副会長	財津 忠幸	
6	大分県建築士会日田支部	常議員	澤熊 祐子	
7	株式会社トライ・ウッド	参 事	古川 和博	
8	協同組合日田家具工業会	事務局長	上部 和彦	
9	日田林工高等学校	進路指導主任	坂本 信教	
10	大分県西部振興局農山村振興部	部 長	神鳥 浩明	
11	日田市農林振興部	部 長	石橋 直樹	

事務局：林業振興課